



迎春

日本設備工業新聞

発行所
(株)日本設備工業新聞社
東京都渋谷区桜丘町10-13
〒150-0031 野元第1ビル
電話 (03) 3496-4774
FAX (03) 3464-1884
info@setubikogyo.co.jp
年額8,800円(税送料込)

撮影
株式会社アカギ
小川和男氏
二条城
清流園・香雲亭

環境大臣・兼内閣府
原子力防災担当大臣



小泉進次郎

世界の注目を集める年に 先進的な取り組みを発信

新年明けましておめでとうございます。
昨年、我が国は台風十五号、十九号等の激甚な自然災害に見舞われまし。このような深刻な災害は、気候変動の影響拡大に備える必要性を社会に突き付けました。地球温暖化の進展に伴い、今後、このような気象災害のリスクは更に高まると予測されており、気候変動というファクターを防災に取り入れることがもはや必然となったことを受け、「気候変動×防災」という認識がより重要になると考えています。

我が国はこれまでに何度も激甚な災害に見舞われ、そのたびにこれを乗り越えて「社会変革」を実現してきました。環境省は、「社会変革担当省」として、持続可能な社会への移行をリードしていく決意で施策を実行してまいります。

気候変動対策の分野において昨年十二月に開催されたCOP25では、我が国が当初から期待する結果には至らず、パリ協定に基づく市場取引ルールについては継続交渉となりました。しかし、交渉の過程で私自ら、各国の大臣等と計三十六回もの二者間会談を行い、議長を補佐し、各国間の交渉を積極的にリードするなど、国際社会での我が国の存在感を高めることができましたと考えています。

また、会期中の発信や交渉に対する積極的な貢献を通じ、日本の気候変動対策への揺るぎないコミットメントを示すことができました。世界初の「フルオロカーボン・イニシアティブ」の立ち上げも宣言しましたが、これは、我が国がCOPにおいて初めて立ち上げたイニシアティブです。

世界では今、エアコンが一秒に十台売られており、それが今後三十年間続くと言われています。世界全体で対策を講じなければ、今後四十年間の累積で、CO₂換算で七二〇億トンに相当するフルオロカーボン、いわゆるフロンが排出されるとされています。

しかし、現実の世界に目を向けると、実に百カ国以上の国がフルオロカーボン対策に関する目標を持っていません。そのようなタイミングで立ち上げたこのイニシアティブの重要性は、今後さらに高まっていくと考えています。我が国は、廃棄物発電等の優れた環境インフラの海外展開等を通じた国際貢献に加え、脱炭素社会の実現に向けて欠かせないフルオロカーボン対策についても、世界の取組をリードしてまいります。

また、我が国は昨年六月に策定した「長期戦略」において、G7の中で唯一、排出ゼロ目標を位置付け、実際に二〇一四年以降五年連続で温室効果ガスの排出削減を実現してきており、この実績についてもCOP25で発信しました。引き続き、「長期戦略」を絵空事に終わらせないという決意の下、「気候変動×防災」の発想も持ちながら、気候変動に対して強靱な地域づくりを目指

し、自律・分散型エネルギー設備の導入、災害廃棄物処理体制の構築等を進めます。

国内の脱炭素化に向けて、再生可能エネルギーは必要不可欠なエネルギー源であり、その主力電源化に向けて最大の導入拡大に取り組みます。

昨今、再生可能エネルギーは、災害時に役立つ電源としての評価の高まりや、RE100など経営戦略として導入を進める企業の増加等の変化が見られ、需要側での活用ニーズが高まっています。

環境省は、これまで築いてきた自治体とのつながりや需要側での取組喚起における強みを活かして、エネルギーの需要側における再生可能エネルギーの活用モデルを推進してまいります。

また、海洋国家である我が国において、洋上風力の中でも最大のポテンシャルを有しています。将来的に火力発電並みの低コストでの大量供給の可能性を秘めている洋上風力発電の社会実装に向け引き続き、地域の合意形成の円滑化等を通じて後押ししていく考えです。

そして、気候変動対策への気運は、ノンステータクターと言われる非政府のプレーヤーの間でも着実に盛り上がっています。

例えば、「二〇五〇年までにCO₂排出量実質ゼロ」表明をした自治体

(ゼロカーボンシティ)は、私の呼びかけにより、四自治体(昨年九月時点から急増し、今では二十九自治体(昨年十二月二十日時点)になりました。人口換算では約四千万人、日本の総人口の約三五%を占める大きな動きとなっています。

また、民間企業の取組も目を向けても、日本企業・機関の気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)への賛同数は世界一位、パリ協定と整合した削減目標(SBT)の認定企業数とRE100の宣言企業もアジア一位(それぞれ世界二位、三位)であり、こうした「ゼロ・カーボン・カンパニーズ」の取組も我が国の強みです。

引き続き、こうしたノンステータクターの取組を後押しし、脱炭素社会の実現に向けた仲間を増やしてまいります。

今年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、日本が世界の注目を集める年で就任以来、私は、環境問題に対する日本の取組を国内外に広く「発信」することが重要と考えてきました。東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される本年は、「発信」の絶好の機会です。環境省も熱中症対策等を通じて大会の運営に貢献することはもとより、日本の先進的な取組を世界に発信してまいります。

TOTO

きれいな除菌水のチカラで、毎回手間なし除菌。

NEOREST
詳細は弊社カタログ、HPをご覧ください。

アクアセラミックが、トイレに新世紀を告げる。

100年クリーン

水のチカラで、ずっと輝く

AQUA CERAMIC

クリーン① トイレの汚れが、ツルんと落ちる。^{※1}
クリーン② リング状の黒ずみ、くすみとサヨナラ。^{※2}
クリーン③ 新品時のツルツルが、100年つづく。^{※3}

LIXIL主力住宅トイレのすべてに「アクアセラミック」を展開

株式会社 LIXIL お客さま相談センター ☎ 0120-179-400 受付時間：平日 9:00~18:00 土・日・祝日 9:00~17:00

例えは、「二〇五〇年までにCO₂排出量実質ゼロ」表明をした自治体